

独立行政法人航空大学の平成 28 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が達成され、国土交通大臣による平成 28 年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員の新任等は行われなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	平成 28 年度評価における主な指摘事項	平成 29 年度及び 30 年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年 8 月 25 日に仙台空港において航空事故（胴体着陸）が発生したことから、「航空安全プログラム（SSP）に基づく取組」についてC 評価とした。事故直後に、大学校において推定された事故原因を踏まえた安全総点検、再発防止策が実施され、地元自治体等への説明を経たうえで学生訓練が速やかに再開されているが、現在も運輸安全委員会において事故内容の調査中であるため、事故報告書が公表され次第、必要に応じて追加的な安全対策を講じるべきである。</li> <li>・事業用操縦士（陸上多発）及び計器飛行証明の資格取得率について、今回の実績値が自社養成パイ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年度においては事故調査報告書が公表されなかったため、平成 30 年度計画において、運輸安全委員会から事故調査報告書が公表され次第、必要に応じて追加的な安全対策を講じる旨を追加した。</li> <li>・資格取得率については中期目標に掲げられている目標値を達成するべく中期計画及び年度計画を策定している。</li> </ul>

	<p>ロットの資格取得率と同等であることから、もう少し高い目標値としてもよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教官の質の向上が学生の質の向上に繋がることとなるため、各種取組を着実に進めて頂きたい。</li> <li>・推定される事故原因を踏まえた再発防止策を繰り返し学生に教育するなどして、引き続き、安全面には重点を置いて取り組んで頂きたい。</li> <li>・養成定員の拡大に向けた教官の増員を控え、今後更に教官会議の重要性が高まるので、会議内容の充実を検討して頂きたい。</li> <li>・協議会などの場において、研究成果を生かすなどして、主体的に教育ノウハウの共有に取り組んで頂きたい。</li> <li>・航空教室等は地元以外の大都市での開催も検討されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画に基づいた取組を着実に実施している。</li> <li>・安全教育や安全総点検において継続的に過去に実施した再発防止策の措置状況等を確認している。</li> <li>・教官会議において、クラス毎の訓練進捗確認、学生の近況報告、実科教育中に発生した特異な事例の対処法及び教育法の議論、コンプライアンスや安全に関する教育、訓練機の効率的運用のための周知、セミナー等の参加者からの内容報告等を行い会議内容の充実に取り組んでいる。</li> <li>・「小型航空機 RNAV 検討 SG」といった研究テーマに関連した場において、研究成果を紹介し関係機関とのノウハウ共有に取り組んでいる。</li> <li>・平成 29 年度に首都圏で開催された航空学校合同説明会で資料配布する取組を新たに実施した。また平成 30 年度計画においても同様の取組の実施について記載した。</li> </ul>
<p>業務運営の効率化に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が採用される環境を実際に見てもらおうという目的や、年々進歩しているエアラインにおける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度、平成 29 年度において教官に対してエアラインオブザーブを実施している。</li> </ul>

	CRM の取組を学生訓練の参考にしてもらうため、 教官のエアラインオブザーブの実施を検討して頂 きたい。	
財務内容の改善 に関する事項	なし	—
その他の事項	なし	—